

# 変革の時代におけるまちづくり

令和4年第1回市議会定例会の初日、山下市長は令和4年度の施政方針を力強く訴えました。三豊市の未来を見据え、市民の皆さまが豊かであり続け、暮らし続けられる市であること、そして、持続的に発展し続けるまちづくりに取り組みます。本年度の取り組みを予算とともに紹介します。

## 市政運営の所信

新型コロナウイルス感染症が初めて確認されてから2年以上が経つのも、世界的なパンデミック<sup>\*</sup>はいまだ収束の兆しすら見ません。ウイズコロナの社会において、子どもたちや市民の皆さまに「安心感」を提供し続けることに、全力で取り組んでまいります。

しかし、この「安心感」の実現が非常に難しいことも私たちは知っています。世界中を覆うパンデミックは、政治や経済、私たちの暮らしそのものを大きく変えました。社会の在り様や意識自体は、私たちの想像を超えるスピードで変容し続けています。この変わりゆく時代についていけるのか、順応できるのかという新たな不安も引き起こしています。ウイズコロナへの取り組みは、「時代の流れに合わせた変化」ではなく、「根本的な構造の変革」です。私たちは、これまでの「社会の変化」とは「線」を画する大きな「変革」の時代を生きていかなければなりません。そして、私たちに何より最も根源的なアクションである「人と人との関わり方」「人と人とのつながり」に対する不安も大きく広がっています。感染防止のためには、これまで地域を支えていたコミュニ

ティが機能しなくなりました。さらには、私たちの一番大切な家族を分断の危機に陥れています。私たちは、この言い知れぬ不安を、この危機を何としても乗り越えなければなりません。そのためには、やはり「相手を思いやる心」が必要で、誰が感染してもおかしくない状況で、もし誰かが感染したときに、私たちは家族のように寄り添い、思いやりを持って接しなければなりません。まさに今、試されているのだと思います。改めて、みんなが一丸となってこの危機を乗り越えていきましょう。

## 豊かであり続けるまちづくり

市民の皆さまが暮らしの中で幸せや豊かさを実感し、このまちで暮らすことに誇りを持ち続けるならば、未来への希望が生まれ、夢へと育ち、それを実現したいという行動につながるかと考えます。そして、これこそが本市の抱える多くの課題の解決につながると思っています。私は、そのために必要なことは躊躇なく、全身全霊で取り組んでまいります。改めて市民の皆さまのご理解とご協力を申し上げます。その上で、私が新年度に取り組む施政の方針について述べさせていただきます。

## 「健康」「教育」「脱炭素社会」を3本の柱に

それは3本の柱「健康」「教育」「三豊市独自の脱炭素社会」です。これはウイズコロナ、SDGs<sup>\*</sup>と共通するものであります。

これまで、三豊市第2次総合計画に掲げたまちの将来像「One MITOYO」<sup>\*</sup>につながる豊かさ実感都市<sup>\*</sup>の実現を目標に、「子育て環境の充実」「農林水産業の発展」「AI・ICTの活用」そして「中小企業の支援・育成」など、さまざまな事業を実施してきました。これらにつきましても、今後も継続して取り組みを進めてまいります。

そして、これからの2期目においては、これらに加えて3つの柱に重点を置き、「One MITOYO」という旗印の下、誰も夢と希望を持ち、それを叶えられる三豊市の実現に向け、取り組んでまいります。

## むすびに

私はかねがね「シビックプライド」という言葉を使ってきました。これは、自らの郷土への「愛」と自分がその郷土に貢献しているという「誇り」を複合した概念です。市民の皆さま一人ひとりが「シビックプライド」を抱き、行動を起こした「三豊市」の前進力は、これまでとは比べものにならないほど力強いものとなります。この行動は、人口減少など本市が抱えるさまざまな問題の根本的な解決策となると私は考えます。

今回掲げた3つの柱「健康」「教育」「三豊市独自の脱炭素社会」とは、市民の皆さまが豊かな生活を送り、希望や夢を実現するための全ての根幹となるものです。市民の皆さまの胸の中に、この三豊市で暮らし続ける誇りが生まれることで、明日への希望につながります。希望を持った人は、より良い明日をめざして夢を持ちます。そして夢を持つ人はそれを実現しようと行動を起こします。

今後、社会は私たちの想像を超える大きな変革の時代を迎えます。しかし、この3本の柱は絶対に揺るがない、私たちの生きる源です。絶対に揺るがないものをもって、大きな変革の波に柔軟に対応し、夢と希望があふれ、可能性に満ちたまち、未来に向け持続的に発展し続ける三豊市を、一緒に創り上げていこうではありませんか。

市民の皆さまの一層のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。令和4年度に向けた施政方針といたします。



<sup>\*</sup>パンデミック…感染症や伝染病が世界的に大流行する状態のこと  
<sup>\*</sup>SDGs…2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でより良い世界をめざすための目標



施政方針全文は市ホームページをご覧ください

## 市政運営の3つの柱

### 1 「健康」

第2次総合計画における基本目標「子どもが健やかに育ち、生涯笑顔で過ごせるまち」を中心に、全世代を対象とした「未病<sup>\*</sup>」の防止など、健康な暮らしへの取り組みです。本市において、高齢者の健康寿命の延伸は大きな課題であります。さらには、高齢者だけでなく、今現在、健康である全ての年代の市民の皆さまが病気になるための取り組みも必要です。

現在取り組んでいる「宝山湖ボールパーク 夢いっぱいプロジェクト」や市民の皆さまの健康に関する深い「薬用作物」の栽培などを通して、三豊市を「健康のまち」にしたいと考えています。



▲宝山湖公園完成イメージ図

### 2 「教育」

第2次総合計画における基本目標「知・体・心を育み、自分らしく暮らせるまち」を実現するための取り組みです。地方であることを理由にチャンスや経験に恵まれない、夢を叶えられないという状況は、決して受け入れることはできません。

昨今の予測不能な社会の変化にも動揺することなく、自ら豊かな人生を切り開くことができる人材を育てるためには、できる限り多くの選択肢を提示し、自分の可能性に挑戦できる機会や環境を提供することが大切です。そして、それこそが本市が最優先で果たすべき責務であります。



▲昨年発足した「みとよ探究部」では、参加者たちが自分の力で地域の魅力を探究しました

### 3 「三豊市独自の脱炭素社会」

第2次総合計画における基本目標「人と自然が守られる定住のまち」をめざし、循環型省エネルギー社会の形成に向けて取り組むとしており、脱炭素もその取り組みの一つです。

脱炭素社会への取り組みは、将来の私たちがやその子孫まで、変わらず豊かで美しい環境で暮らし続けられる持続可能な社会を実現するために、避けては通れない私たちの責務です。

市は、令和4年度において「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、すでに策定している「環境基本計画」と同時進行で事業の具体的な行動を定めることで、スピード感のある「三豊市独自の脱炭素社会」の実現に取り組んでまいります。

### 令和4年度の重点的な取り組み

- ・農業をはじめとする地場産業の振興
- ・MAIZM（一般社団法人みとよ AI 社会推進機構）との連携による AI 人材やデータ・サイエンティストの育成
- ・豊富な観光資源、RVパーク<sup>\*</sup>や Mito Pay<sup>\*</sup>（ミトペイ）による地域産業の振興
- ・就学前教育・保育などの子育て支援体制の強化
- ・家庭の経済的な理由などで進学が困難な人へ奨学金を給付
- ・夜間中学運営事業 など



<sup>\*</sup>RVパーク…日本RV協会の基準を満たす、車中泊専用の有料駐車スペース  
<sup>\*</sup>Mito Pay…市独自のキャッシュレス決済アプリ